

(トップページ : <http://mylibrary.maedal.jp/>)

(世界ランクシリーズ : <http://mylibrary.maedal.jp/MENAranking.html>)

マイライブラリー : 0 5 9 3

(注)本稿は 2023 年 12 月 28 日から 31 日まで 4 回にわたり「アラビア半島定点観測」に掲載したレポートをまとめたものです。

2024. 1. 5

前田 高行

北欧が上位を独占、アラブ諸国トップは世界 119 位のカタール：報道の自由度

(世界ランクシリーズ その 10 2023 年版)

国連などの国際機関あるいは世界の著名な研究機関により各国の経済・社会に関するランク付け調査が行われている。これらの調査について日米中など世界の主要国及びトルコ、エジプト、イランなど中東の主要国のランクを取り上げて解説するのが「世界ランクシリーズ」である。

第 10 回の世界ランクは、ジャーナリストの NGO 団体「国境なきレポーター (Reporters Without Borders)」(略称 RSF) が発表した「報道の自由度 2023 (Press Freedom Index 2023)」をとりあげて比較しました。



RSF ホームページ : <https://rsf.org/en/index>

1. 「World Press Freedom Index」について

「国境なきレポーター (Reporters Without Borders)」は、1948 年の世界人権宣言、及びこれに続く 1950 年の「人権と基本的自由の保護に関する会議」などで採択されたいくつかの憲章や宣言に触発され、各国の報道関係者が自発的に結成した非政府組織 (NGO) である。フランスのジャーナリストが中心となって設立されたため、正式の組織名は Reporters Sans Frontieres であり、その頭文字をとって RSF と略称され、本部はパリにある。

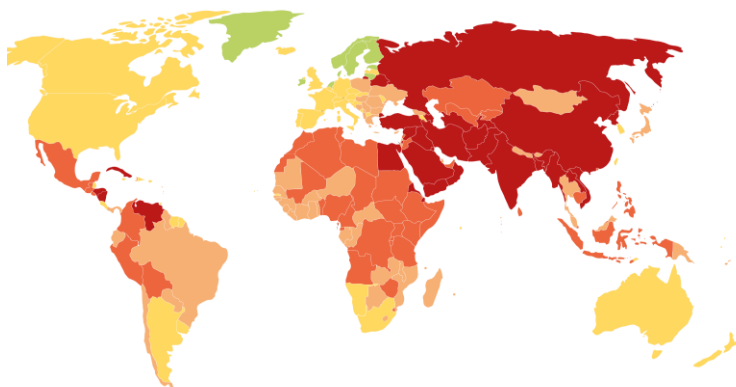
RSF は、世界各国で取材妨害を受け、時には生命の危険に晒されているジャーナリストを保護し、その障害を取り除く活動を行っており、その一環として 2002 年から毎年、報道の自由度に関する各国のランク「報道の自由の指標 (Press Freedom Index)」を公表してきた。この指標は RSF が作成したアンケートに対して、世界各地の表現の自由のための擁護組織団体及び多数のジャーナリストが回答した結果を集計したものである。

2023年版 Press Freedom Index は世界180カ国の報道の自由度を指標化し、ジャーナリストに対する各国の対応ぶりを評価したものである。アンケートでは政治、経済、法制度、社会、安全の5つの分野にわたる合計117の設問に対し、130カ国のジャーナリストが回答したものを統計処理し、各国毎に0点から100点の得点が付けられている。最も自由度が高い場合が100点であり、最悪の評価が0点である。

なおアンケートは毎年行われるため、直近に報道の規制または記者の逮捕などの政府の取材妨害があった国、或いはジャーナリストが誘拐・殺害に遭った国についてはその年のランクが低くなる傾向がある。RSF 自身は、このランクは「報道の質」の良否を示すものではない、と断っている。

RSF のレポートでは点数(ポイント)に応じて各国の自由度を下記の5つに分類し色分けをした世界地図を掲載している。

- (1) 緑色：100～85ポイント(Good situation)
- (2) 黄色：84～70ポイント(Satisfactory situation)
- (3) 橙色：69～55ポイント(Noticeable problems)
- (4) 緋色：54～40ポイント(Difficult situation)
- (5) 赤色：39ポイント以下(Very serious situation)



(世界180か国中で日本は68位、中国は最下位の北朝鮮に次ぐ179位！)

2. 2023年の世界ランク及び前年との比較(末尾表 10-T01 参照)

2023年の報道の自由度世界1位はノルウェーで、そのスコアは95.18である。これに続く世界5位までにはアイルランド、デンマーク、スウェーデン及びフィンランドが入っており全て北欧諸国である。ノルウェーは昨年に引き続き世界1位であり、アイルランドは昨年の6位から2位にアップしている。

主要な国々の世界ランクを見ると、米国はスコア71.22で世界45位である。日本はスコア63.95で世界68位である。スコアと順位を昨年と比較すると、米国はスコアが1.52悪化し順位も3ランク下がっている。日本はスコアは0.42下がったが、順位は3ランク上がっている。日本以外のG7の国々はカナダ(15位)、ドイツ(21位)、フランス(24位)、英国(26位)、イタリア(41位)、米国(45位)といずれも日本より報道の自由度が高いとされている。またBRICs諸国は南アフリカ(25位)が際立って高く、インド、ロシア及び中国は160位以下にとどまっている。特に中国は調査対象国180カ国中最下位の北朝鮮に次ぐ最低レベルに評価されている。

中東諸国を見ると、トップはイスラエルで同国の世界順位は97位と世界のほぼ中位である。しかし同国以外の中東各国はいずれも100位以下であり、その中で比較的高いのはカタール(105位)、レバノン(119位)である。カタール以外のGCC諸国はUAEが145位であり、クウェイト(154位)、オマーン(155位)、サウジアラビア(170位)、バハレーン(171位)など最下位クラスにとどまっている。カタールはアラビア語圏ではもっとも人気の高いアル・ジャジーラ放送の拠点であり、欧米諸国からは国際報道姿勢を高く評価されている。特に近年はアフガニスタンのタリバン政権或いはパレスチナガザ地区を実効支配しているハマスに事務所開設を認めるなど、かなり大胆なメディア開放政策を取っていることが評価されているようである。

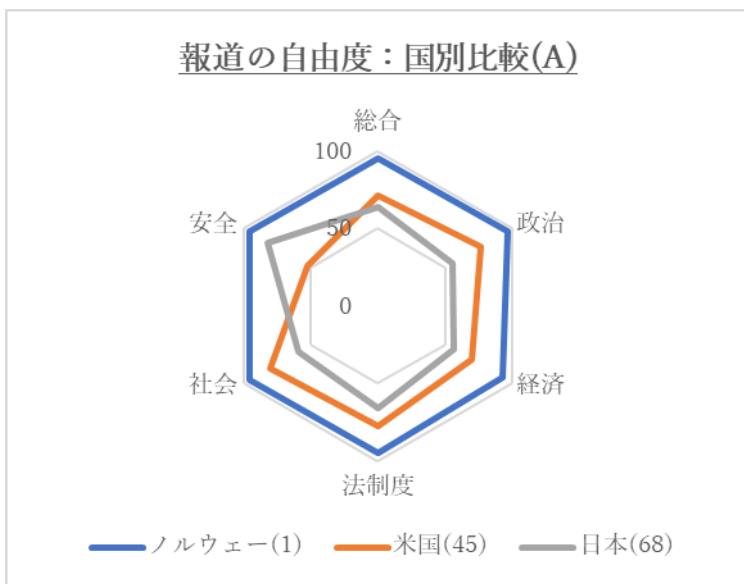
中東の主要国であるトルコ、エジプト及びイランの世界ランクはそれぞれトルコ165位、エジプト166位、イラン177位でありいずれも自由度の評価は最低クラス(評価度:Very serious situation)である。3か国のスコアを前年の2022年と比較すると、トルコは41.25→33.97と大幅に下がっているのに対し、エジプトは30.23→33.37、イランは23.22→24.81と若干改善している。

3. 分野別の自由度比較(レーダーチャート)

報道の自由度はPolitical context(政治)、Economic context(経済)、Legal framework(法制度)、Sociocultural context(社会)、Safety(安全)の5つの分野について各国の対応を評価したものである。ここでは(1)ノルウェー(総合世界1位)、米国、日本、(2)インド、ロシア、中国のBRICS3カ国、及び(3)イスラエル、カタール、サウジアラビアの中東3か国の分野別評価をレーダーチャート方式で比較する。

(すべての面で最高の評価を受けるノルウェー！)

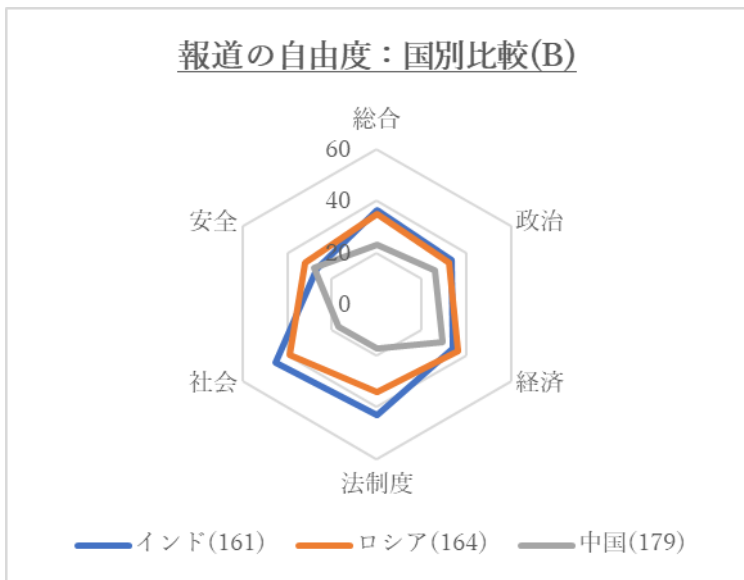
(1) ノルウェー、米国、日本



を示している。これに対して安全分野の3カ国の評価は、ノルウェー95.98、米国52.49、日本81.99であり、米国の評価がノルウェー、日本に比べ非常に低いのが特徴である。

(社会・法制度の評価が高いインド、低い中国！)

(2) インド、ロシア、中国



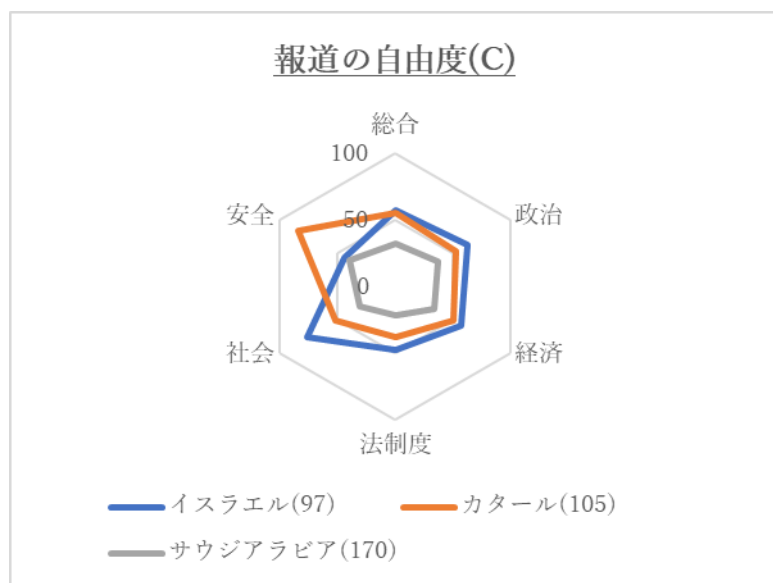
めて評価が低い。法制度及び社会分野の自由度は中国が他の2カ国に比べ大きく後れを取っている。社会分野の場合、インド45.27、ロシア38.94に対し中国の評価は17.07である。

総合順位はノルウェーが世界1位、米国45位、日本68位である。ノルウェーは5つすべての分野で90点を超える高い評価を得ている。分野別に見ると政治分野では3カ国の評価点はそれぞれ96.54, 76.56, 55.75であり、3カ国の格差は大きい。ちなみに日本の政治面の報道の自由度は他の4分野の中で最も低く、その一因としてRSFは国会記者クラブの閉鎖性を挙げている。経済、法制度、社会の3分野は政治分野と同様の傾向

BRICS 経済グループの中核をなすインド、ロシア及び中国3カ国の総合順位はそれぞれ161位、164位及び179位であり、3カ国ともレベルが低く特に中国は北朝鮮に次ぐ世界最下位である。3カ国の自由度を分野別で比較すると、政治及び経済分野ではインドとロシアが30点台前半でほぼ同じであるが、中国は20点台にとどまっている。また安全分野ではロシア31.82、中国27.87、インド27.12であり、上記(1)の3カ国に比べ極

(安全の評価が高いカタール、すべての面で劣るサウジアラビア！)

(3) イスラエル、カタール、サウジアラビア

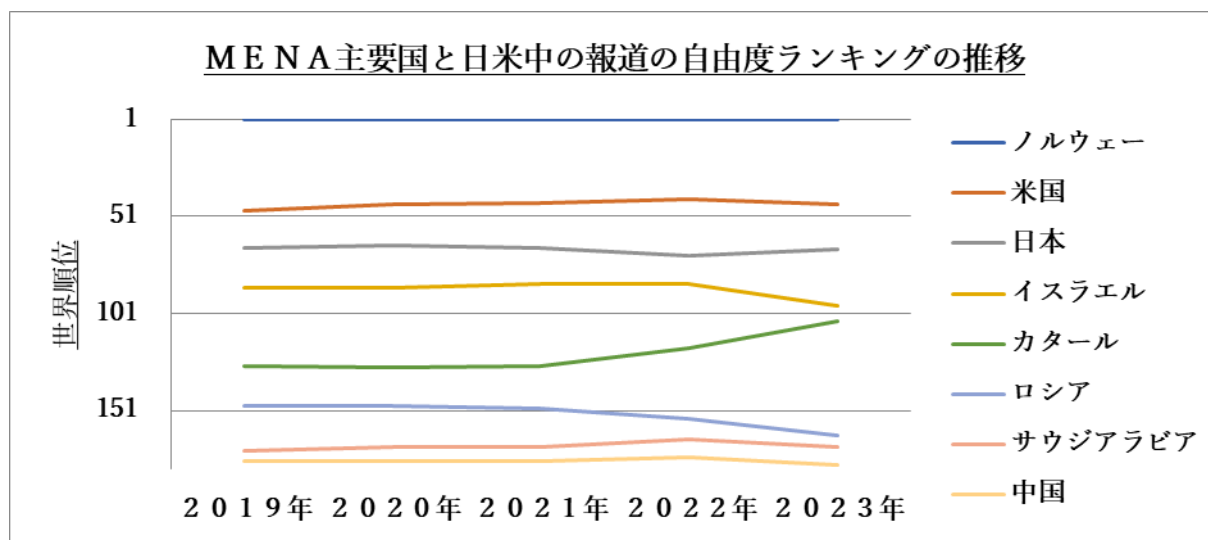


総合順位はイスラエル 97 位、カタール 105 位、サウジアラビア 170 位である。政治、経済及び法制度の 3 分野はいずれもイスラエルが 3 か国のトップであり、カタールがこれに次ぎ、サウジアラビアは最も低く総合順位と同じ傾向を示している。しかし社会分野ではイスラエル 76.14、カタール 51.14、サウジアラビア 30.11 とイスラエルが米国並みの高い得点をあげている。一方安全分野ではカタール

83.93、イスラエル 44.3、サウジアラビア 39.8 であり、カタールは日本を上回る評価を得ており、イスラエルあるいはサウジアラビアに比べ群を抜いた得点である。

(ノルウェーが 5 年連続世界一位、世界最低レベルを抜け出せない中国！)

4. 日米中と中東主要国の世界ランクの推移(2019年～2023年)



2023年世界一位のノルウェーに加え日本、米国、ロシア、中国及び中東3か国(イスラエル、カタール及びサウジアラビア)の2019年から2023年までの5年間の世界ランクの推移を見ると、ノルウェーは5年連続でトップを維持している。

米国の世界順位は48位(2019年)→45位(20年)→44位(21年)→42位(22年)→45位(23年)と40位台が続いており、2019年以降は毎年少しずつ順位を上げたものの、今回(23年)は少し下がっている。日本の順位は67位(19年)→66位(2

0年) →67位(21年) →71位(22年) →68位(23年)と変化しており、米国とは反対に昨年まで下がっていた順位が今回は3ランク上がっている。

中東のイスラエルは2019年から22年まで80位台後半であったが、今回は昨年より11ランク下がり97位に後退している。イスラエルとは対照的にカタールは128位(19年) →129位(20年) →128位(21年) →119位(22年) →105位(23年)と直近3年間で大きく躍進している。ロシアとサウジアラビアと中国は過去5年間150位以下にとどまっており特にロシアは2021年から23年にかけて大きく落ち込んでいる。中国は2019年から2021年まで世界177位を続けた後、2023年は世界180カ国中179位と言う世界最低のレベルに落ちている。

(完)

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行 〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601
Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642
E-Mail; maedal@jcom.home.ne.jp

報道の自由度(Press Freedom Index)ランキング

2023年			2022年		2023/2022年	
世界順位	国名	ポイント	世界順位	ポイント	順位	ポイント
1	ノルウェー	95.18	1	92.65	0	2.53
2	アイルランド	89.91	6	88.30	4	1.61
3	デンマーク	89.48	2	90.27	▲ 1	▲ 0.79
4	スウェーデン	88.15	3	88.83	▲ 1	▲ 0.68
5	フィンランド	87.94	5	88.42	0	▲ 0.48
最下位 (180位)	北朝鮮	21.72	180	13.92	0	7.80
45	米国	71.22	42	72.74	▲ 3	▲ 1.52
47	韓国	70.83	43	72.11	▲ 4	▲ 1.28
68	日本	63.95	71	64.37	3	▲ 0.42
92	ブラジル	58.67	110	55.36	18	3.31
161	インド	36.62	150	41.00	▲ 11	▲ 4.38
164	ロシア	34.77	155	38.82	▲ 9	▲ 4.05
179	中国	22.97	175	25.17	▲ 4	▲ 2.20
	(中東主要国)					
97	イスラエル	57.57	86	59.62	▲ 11	▲ 2.05
105	カタール	55.28	119	49.03	14	6.25
119	レバノン	50.46	130	46.58	11	3.88
145	UAE	42.99	138	44.46	▲ 7	▲ 1.47
165	トルコ	33.97	149	41.25	▲ 16	▲ 7.28
166	エジプト	33.37	168	30.23	2	3.14
170	サウジアラビア	32.43	166	33.71	▲ 4	▲ 1.28
177	イラン	24.81	178	23.22	1	1.59

- ポイント別評価：
- (1) 100～85ポイント(Good situation)
 - (2) 84～70ポイント(Satisfactory situation)
 - (3) 69～55ポイント(Noticeable problems)
 - (4) 54～40ポイント(Difficult situation)
 - (5) 39ポイント以下(Very serious situation)